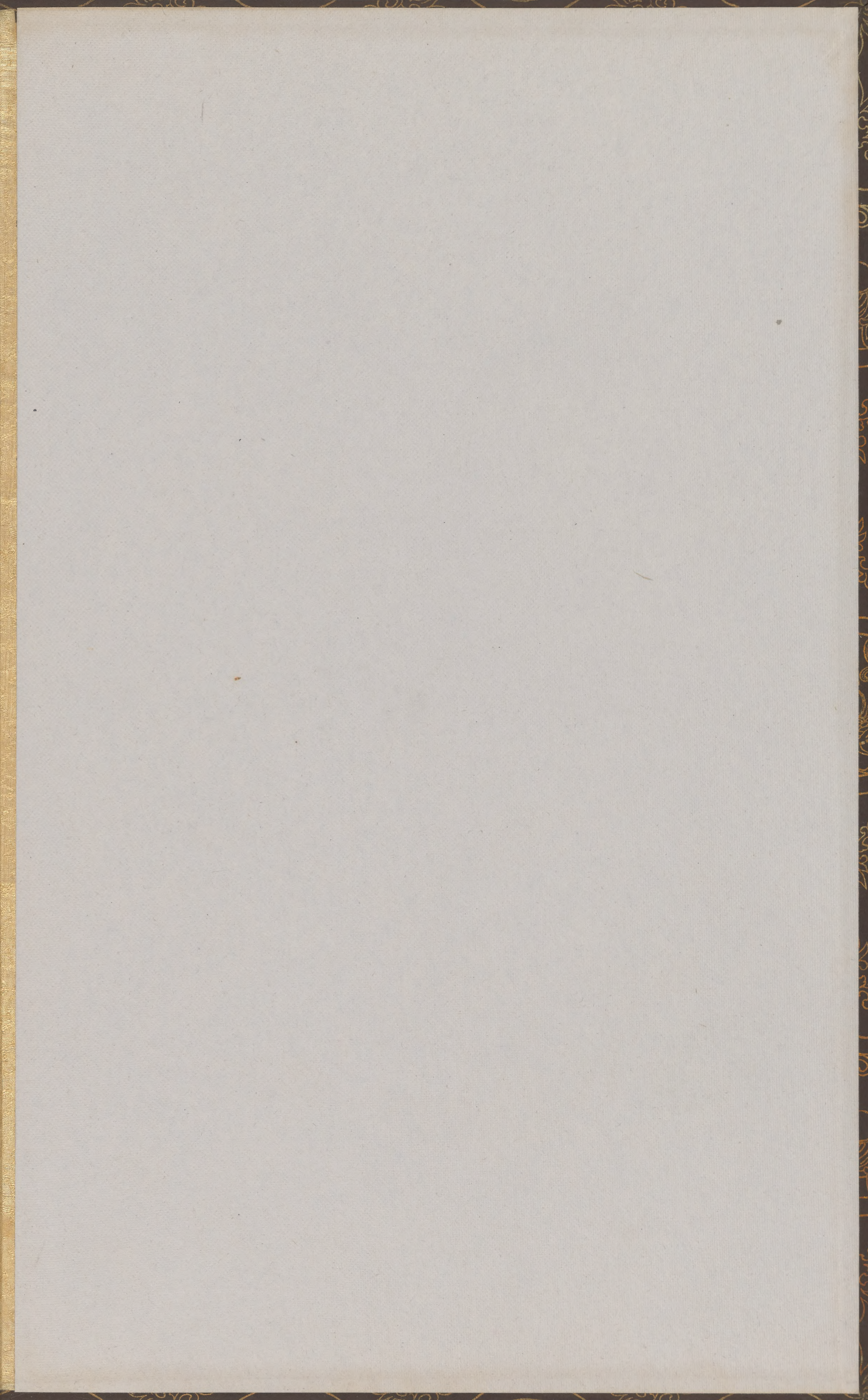


東洋美術大観十五

Blank Page Digitally Inserted

東洋美術大観十五



東洋美術大觀第十五冊 彫刻之部 前承

目次

日本の彫塑……………

- 第一圖 法隆寺金堂釋迦三尊金銅像 鞍作止利作
- 第二圖 法隆寺夢殿觀世音菩薩木像
- 第三圖 法隆寺金堂觀世音菩薩木像
- 第四圖 中宮寺如意輪觀世音菩薩木像
- 第五圖 廣隆寺如意輪觀世音菩薩木像
- 第六圖 帝室御物觀世音菩薩金銅像
- 第七圖 帝室御物如意輪觀世音菩薩金銅像
- 第八圖 法輪寺觀世音菩薩木像
- 第九圖 法隆寺金堂四天王木像 其一、其二
- 第十圖 法隆寺金堂四天王木像 其三、其四
- 第十一圖 法隆寺金堂天蓋木彫飛天、鳳凰
- 第十二圖 岡寺天人磚
- 第十三圖 法隆寺金堂橘夫人厨子阿彌陀三尊金銅像
- 第十四圖 藥師寺東院堂聖觀世音菩薩銅像
- 第十五圖 法隆寺九面觀世音菩薩木像
- 第十六圖 藥師寺藥師三尊金銅像 其一
- 第十七圖 藥師寺藥師三尊金銅像 其二
- 第十八圖 藥師寺藥師三尊金銅像 其三
- 第十九圖 長谷寺銅鑄鎚鏤千佛多寶塔
- 第二十圖 蟹滿寺釋迦銅像
- 第二十一圖 法隆寺塔內塑像 文殊維摩問答及佛涅槃
- 第二十二圖 東大寺三月堂梵天塑像
- 第二十三圖 東大寺三月堂廣目天夾苧漆像
- 第二十四圖 東大寺三月堂執金剛神塑像
- 第二十五圖 法華寺十一面觀世音菩薩木像
- 第二十六圖 東大寺戒壇院四天王塑像 其一 毘沙門天王
- 第二十七圖 東大寺戒壇院四天王塑像 其二 增長天王
- 第二十八圖 東大寺戒壇院四天王塑像 其三 持國天王
其四 廣目天王
- 第二十九圖 唐招提寺盧舍那佛夾苧漆像
- 第三十圖 唐招提寺鑑真和尚紙糊像
- 第三十一圖 興福寺十大弟子夾苧漆像 須菩提
- 第三十二圖 興福寺八部衆夾苧漆像
- 第三十三圖 聖林寺十一面觀世音菩薩夾苧漆像
- 第三十四圖 淨瑠璃寺吉祥天木像
- 第三十五圖 新藥師寺十二神將塑像伐折羅毘羯羅二大將

第三十六圖 興福寺銅鑄華原磬

第三十七圖 豐後國白杵大日山磨崖像 其一

第三十八圖 豐後國白杵大日山磨崖像 其二

第三十九圖 豐後國白杵大日山磨崖像 其三

第四十圖 豐後國白杵大日山磨崖像 其四

第四十一圖 正倉院御物伎樂神王面 將李魚成作

第四十二圖 正倉院御物伎樂面 二 隨群作

第四十三圖 正倉院御物伎樂迦樓羅面

第四十四圖 神護寺藥師如來木像

第四十五圖 教王護國寺不動明王木像 弘法大師作

第四十六圖 近江渡岸寺觀音堂十一面觀世音菩薩木像

第四十七圖 教王護國寺兜跋毘沙門天木像

第四十八圖 東大寺良辨僧正木像

第四十九圖 松尾神社男神木像

第五十圖 松尾神社女神木像

第五十一圖 藥師寺八幡宮仲姬木像 定朝作

第五十二圖 平等院鳳凰堂阿彌陀如來木像

第五十三圖 法金剛院十一面觀世音菩薩木像

第五十四圖 中尊寺一字金輪佛頂木像

第五十五圖 長命寺千手觀世音菩薩木像

第五十六圖 大寶神社木彫狛犬

第五十七圖 興福寺玄昉木像

第五十八圖 興福寺常騰木像

第五十九圖 東大寺南大門二王木像 其一 運慶作

第六十圖 東大寺南大門二王木像 其二 湛慶作

第六十一圖 興福寺無著菩薩木像

第六十二圖 興福寺世親菩薩木像

第六十三圖 蓮華王院婆藪仙人木像

第六十四圖 金剛峯寺不動堂矜羯羅童子木像

第六十五圖 興福寺維摩居士木像 定慶作

第六十六圖 鞍馬寺聖觀世音菩薩木像 定慶作

第六十七圖 興福寺二王木像 定慶作

第六十八圖 興福寺木彫龍燈鬼天燈鬼 康辨作

第六十九圖 東大寺僧形八幡大菩薩木像 快慶作

第七十圖 東大寺重源上人木像

第七十一圖 東大寺南大門石獅子 二軀

第七十二圖 建長寺北條時賴木像

第七十三圖 銀閣寺足利義政法體木像

第七十四圖 寶山寺不動明王木像 湛海作

東洋美術大觀 第十五册

日本の彫塑

支那苻秦、元魏の世に當り、佛教始めて三韓に傳はり、東魏、高齊の美術に倣ひて、佛像の製作百濟に盛なるに及び、欽明帝の御世に至りて、流れて我國に入る。日本の美術これより見るべし。その繪畫に關する事は、本書第一册乃至第七册に詳述し、支那の繪畫、彫塑は第八册乃至第十四册に畧叙せり。今本册を以て東洋美術大觀の大編纂を終らむとするに方り、こゝに日本彫塑の概要を述べ、遺作の尤品を列舉せむとす。そも、推古帝の御世、聖德太子の大いに佛教を興隆せらるゝや、佛師鞍作止利出でて、佛像彫鑄亦始めて起る。その藍本たりしものは、即ち百濟所製の像にして、作風全く支那の元魏末乃至高齊時代の物に同じ。こゝを以て我が國最初の佛像も、從ひて魏齊の様式を傳襲せり。乃ちこれをその遺作に徵するに、推古天皇三十一年止利の手に成りし法隆寺金堂の釋迦三尊像^{第一}の如き、第十三册掲ぐる所の魏齊の石像と、極めて相肖似せるを見る。同寺夢殿に安置する聖德太子等身の觀音^{第二}、金堂の觀音^{第三}、中宮寺及太秦廣隆寺の如意輪觀音^{第四}、傳稱せる彌勒^{第五}、法隆寺の舊藏にして今帝室の御物たる通稱四十八體佛中の數軀^{第六}、及法輪寺の觀音^{第七}、等亦皆然り。下りて孝德帝時代の作者山口費大口藥師德保等の手に成れる法隆寺金堂の四天王^{第九}に至りては、作風仍魏齊に似たり。雖も、技術較巧整を加へたり。法隆寺金堂天蓋の飛天、鳳凰^{第十}、岡寺出土の天人磚^{第十一}等、以て佛像以外の變化を見るべし。大化革新以降、直接李唐と交通して、頻りてその文物を輸入模倣するに方り、彫塑の様式亦次第に初唐の風を傳へ、三韓所傳の古朴の風は、漸くその迹を絶つに至る。法隆寺金堂安置する所、光明皇后の母橘夫人の念持と稱する厨子中の彌陀三尊^{第十}、藥師寺東院堂の觀音銅像^{第十一}、及法隆寺九面觀音檀像^{第十二}等の如きは、或は唐土の所製に非ざるなきやを疑ふ。雖も、この頃よりして奈良朝に至るまでの美術は、由來彼我の差別を判定すること難し。されば藥師寺の藥師三尊大銅像^{第十六}乃至^{第十八}は、持統天皇の勅造に係り、長谷寺の千佛多寶塔^{第十九}は、僧道明が天武天皇の爲に造る所なり。雖も、前者は佛壇に唐産の白玉石を用ゐ、座飾に唐鏡と筒ぶここなき蒲桃文を著け、後者は永徽前後盛に唐にて造られたる磚像と、圖様の全く同じきを見る。多寶塔上左右滿面著くる所の小化佛は、即ち謂はゆる鎚鏤像にして、隋唐の際に行はれしもの、その薄金の朽ち易きが爲か、支那の出土品にこれあるを聞かずして、獨りその遺品を我が國に存ず。亦以て當時の巧藝を考ふるに足れり。蟹滿寺の釋迦像^{第二十}の如きも、亦初唐の様式に屬するもの、尤品たり。文武、元明の兩朝、塑像の製起る。蓋し亦唐よりその法を傳へたるなり。文武帝代成る所の藥師寺塔内釋迦八相五百餘軀は、不幸にして今に存せざれど、和銅間の物と聞ゆる法隆寺塔の塑群像^{第二十一}、^{上は東面文殊、下は釋迦涅槃}は、乃ち當時の製

を存ず。奈良朝に至りては、實に我が國彫塑史の黄金時代なり。初盛唐の作風爛熟の極に達し、後世殆んど及ばざる高雅の妙域に詣りぬ。蓋し聖武天皇、光明皇后檀輿の致す所に外ならず。遺作の今に存するもの亦頗る富めり。就中東大寺三月堂は、同寺創建の根基にして、天平五年良辨の營む所。安置の諸像、堂と共に依然として凡そ千二百年の舊觀を更めず。當時夾紵漆像の作法亦唐より傳はり、我が國始めてその製を見る。三月堂の諸像乃ち皆塑像と夾紵漆を以て成れり。本尊不空絹索觀音を首めとして、梵天第二十圖、帝釋、日光、月光、二王、四天王第二十圖、驚歎せしむ。東大寺の總國分寺たるに相並び、總國分尼寺として建立せられたる法華滅罪寺、亦當年の製作を留む。十一面觀音第二十圖の如きは即ちこれなり。唐僧鑑眞聘せられて來朝し、戒壇を東大寺に立て、始めて授戒の羯磨を行ずるや、壇上四維に安置する所の四天王塑像第二十圖、第二十圖は其の毘沙門天、第二十七圖は其の增長天、第二十八圖は其の持國天、及廣目天。今戒壇院に存ず。その崇高美妙、殆ど奈良朝塑像の白眉たり。後鑑眞唐招提寺を建つ。その弟子思託、如寶及昆崙國人軍法力等の作に成るを稱する盧舍那佛第二十圖、及鑑眞像第十圖等、現にその寺に存ぜり。鑑眞の像は、蓋し肖像遺品の最も古きものにして、傳神の技亦その妙を極めたるを見る。その餘興福寺に存する額安寺の古像十大弟子第三十一圖、及八部衆第三十二圖、聖林寺の十一面觀音第三十圖、淨瑠璃寺の吉祥天第三十圖、新藥師寺の十二神將第三十五圖等も、亦奈良朝遺作の錚々たるものことす。興福寺の華原磬第三十圖も、亦當年の物なるべけれど、或は唐製なるやも知るべからず。帝畿以外僻遠の地にして、奈良朝時代の製作を存するもの、間々亦これ有り。豊後の磨崖像の如きを以てその尤ことす。臼杵町外深田村大日山の石崖諸像第三十七圖、技術最も勝れたり。傳へて養老年間律師仁聞の造る所なり。云ふ。作風全く唐代龍門石窟の像に同じ。或は想ふに、唐土の彫工を聘して鑿造の任に當らしめしものか、僻鄙の妙巧、誰かこれを驚訝せざることを得むや。仁聞の蹟は、大日山の外、尙大分附近に少からず。往々古密教の像設あり。以上舉ぐる所の外、奈良朝彫刻の妙技を賞すべきもの、尙伎樂面あり。天平間、工匠寮の造樂面工、その名、正倉院古文書に著れたるもの少からず。面裡亦その名を識せるものあり。こゝに正倉院御物中將李魚成第四十一圖は、隨群第四十二圖等の作に係る諸面、及作者不詳の迦樓羅面第四十圖を掲げて以て鑿賞に資す。東大寺等亦この種の伎樂面を藏する者少からず。その製多く桐木を用ゐ、或夾紵漆の法に依り、施すに設色を以てす。面相の變化頗る觀るべし。平安遷都の後、空海、慈覺等の八家相接いで入唐求法し、台東の兩密始めて興り、密教諸尊像又始めて出で、中晚唐の風を傳へて、彫刻の様式一變す。塑像、夾紵漆等は、これより後幾ならずしてその法絶え、爾來彫木、鑄銅の像専ら行はる。平安朝初期の遺作中、先づ指を屈すべきものを、弘法大師の作と傳稱せる神護寺の藥師第四十圖、東大寺の不動第五十圖、傳教大師の作と傳稱せる近江觀音堂の十一面觀音第六十圖、羅城門の樓上に安置せり。云ふ。東大寺の兜跋毘沙門第七十圖、東大寺の良辨の自作と稱する肖像第八十圖等ことす。奈良朝と稍その趣を異にせる當年の技風を觀るべし。國神の像設は、八幡垂迹の信仰より起り、この時代に於いて、始めてその製作の出づるを見る。松尾神社男女二神第五十九圖、藥師寺八幡宮の仲姫像第五十圖。

等即ちこれなり。この種の神像は、後世終に美術上の發達を成さず。その製作復佛像の盛なるに及ばずして止みぬ。蓋し御魂代の思想の致す所なり。藤原氏の攝關より平家全盛の時代に至るまでの間皇室清華の造寺檀興その盛を極め、專業の佛師家を成す者少からず。その最も著れたるを七條佛所とす。その祖定朝の後、覺助、賴助、康助を経て以て康慶に至る。定朝の門人長勢、別に三條佛所を興し、賴助の弟院助は、七條大宮佛所の祖たり。又六條萬里小路佛所あり。七條中西東の三佛所、亦相踵いで起る。何れも皆大佛師職として、造佛の賞に代々僧位の補任を受け、佛所ごとに小佛師數十百人を有し、以て斷えず朝家公卿の檀興、南北京諸大寺の造像に従事せり。長勢の後數代、三條佛所最も盛にして、その勢一時七條の本所を凌げり。惠心僧都はその西方の教を首唱せるが爲に、阿彌陀像の古くしてその作佳なるものは、繪畫と言はず、彫塑と言はず、多くは皆その遺作と傳稱せらる。然れども蓋し亦佛師の手に成れるなり。而して當代彫刻の作風は、文學、繪畫等との趨勢を同じうし、概して流麗優美の趣を以て勝る。並びにこれを定朝等の作に見るべし。定朝の作と傳稱するもの亦甚だ多けれど、その信憑すべきものは、乃ち鳳凰堂の阿彌陀第五十圖等あるに過ぎず。その餘作者詳ならずと雖も當代の彫像、傳世固より少からず。今法金剛院の十一面觀音第五十三圖、平泉中尊寺の一字金輪佛頂像第五十四圖、及近江長命寺の十一面觀音第五十五圖等を掲げて、以てその一斑を示す。佛像以外の彫刻にては、近江大寶神社の獅子第五十六圖の如きを、その最も賞すべきもの、一とす。鎌倉時代は日本彫刻史上のレネイサンスなり。七條佛所に康慶の子運慶の大手腕を出し、その子湛慶、定慶、康辨、及門人快慶等輩出して、一門妙手の淵藪たり。以て盛に造佛の需めに應じ、鉅像大作月を闕せずして成る。その盛運後世再び見ざる所たり。作風は前代の優美と其の趣を異にして、跌宕遒勁、寫實の技亦頗る進めり。康慶の文治四年作る所、法相六高僧の像第五十七圖、興福寺に在り。運慶に至りては、跨竈出藍、一層の妙技を發揮す。建仁三年その子湛慶と共に作る所、東大寺南大門の二王第五十九圖は、鉅壯妙工並びに天下に冠たり。承元二年作る所の無著第六十圖、世親第六十一圖、二菩薩の像は、その父康慶の六高僧に比するに、力量の較く勝れたるを見る。その餘傳へて運慶の作と稱するものは、古寺名刹到る處殆んど在らざるなし。雖も、信憑するに足るものは則ち甚だ多からず。蓮華王院の本尊觀音及二十八部衆第六十三圖は、金剛峯寺不動堂の八大童子第六十四圖等の如きは、その最も見るべきものたり。運慶の子定慶、康辨亦共に的確なる遺作を留む。興福寺の維摩像第六十五圖は、定慶の建久七年作る所、鞍馬寺の聖觀音像第六十六圖は、嘉祿二年亦定慶の作る所たり。興福寺の二王像第六十七圖も亦定慶の手に成れり。康辨の遺作には、同寺の天燈鬼、龍燈鬼第六十八圖あり。快慶は字を安阿彌と云ふ。その遺作亦佳品に乏しからず。東大寺の八幡大菩薩像第六十九圖は、建仁元年その彫刻する所に係る。流麗の作風、稍運慶と異れり。傳へ言ふ。運慶は忿怒部の作に長じ、安阿彌は如來部の像を以て勝る。蓋し所以あるなり。東大寺俊乘坊重源の像第七十圖はその作者を詳にせず。雖も、想ふに寂後久しからざる頃の物ならむ。同寺南大門の石獅子第七十一圖は、建久七年宋人陳和卿の徒六郎等の手に成る。以て佛像以外彫刻の作風を徵すべし。鎌倉の地亦當時の遺作を留むるもの少からず。今僅に佛教像と類を異にせるもの、一例として、自作と傳稱す

る建長寺の北條時頼像^{第七十圖}を掲ぐ、足利時代以降、造佛の業は古の如く尊ばるゝことなく、彫刻の技術品格較下り、復鎌倉時代以前に比すべきものを出さず。その作風の特異なるもの、禪門の肖像を以て最も著しきこと。蓋し明風の影響なり。こゝに銀閣寺義政の像^{第七十圖}を掲げてその一例と爲す。徳川時代に至りては、明僧隱元の將ゐたる佛師范道生が、黃檗山萬福寺の諸像を作りてより、謂はゆる黃檗風の彫刻行はれ、元祿間、清水隆慶等出で、巧麗の技を極む。傳へて生駒の湛海比丘の作と稱するもの、蓋し多く隆慶の手に成れり。こゝにその法華寺の不動^{第七十圖}を掲げて以て一斑を察するに便す。

弊院この書の編纂を經始してよりこゝに十年。明治四十一年始めてその第一冊を出すに方り、日本繪畫の部は、從來歴史の完全なるものあらざるを以て、群籍を涉獵し、遺作を搜訪し、力めて集載叙説の精詳を期せしが、頁數餘りに哀大にして、第七冊の如きは、固より費用を吝むに非ずと雖も、製本不可能となりたるが爲に、止むことを得ずして、華山、文晁以下の史傳を割愛削除し、その原稿千餘頁は、今尙依然として篋底に遺れり。由來この書の如き、専ら影本を觀るを主とするものにして、同時に精讀を要する史傳の詳密なるものを兼ねしめむは、殆ど不可能且不適當の企圖なること、おのづから明なるに至りぬ。こゝに於いて、支那繪畫の部に至りては、明清の浩翰なる畫傳の業に已に備はれるものあるに譲りて、解説は極めて簡要を旨とし、別に弊院に於いて單行せる支那繪畫小史の文を以て、これに充てたり。而して支那の彫塑は支那に未だ一部の史傳あることなく、その原委沿革の如き、學者の未だ曾て知らざる所なるが故に、縱令簡單なる小歴史もこれを述ぶること繪畫史の成書に據りて叙し易きが如くなること能はず。こゝを以て、編者大村西崖氏は、新に經史を首めとして、百子、雜書に至るまで、皆これを繙閱し、又廣く金石の墨本を搜覽し、遺物を採訪すること五年間、漸くにして三代乃至五季以前に於ける支那彫塑の變遷を明にするを得、その要を摘み粹を抜いて以て本書支那彫塑部の説明を叙述せり。本書刊行の、この部に於いて歲月を遷延したるは、畢竟これが爲のみ。これ洵に止むことを得ざるなり。初め十五冊にて完結の約なれば、剩す所は僅に一冊と爲りぬ。これを以て日本彫塑を採録し盡さむは、固より容易ならねど、その佳品を抽いて變遷の概要を示さむは、乃ち成し難きに非ず。因りてこゝに鎌倉時代以上を主として名品を集選し、支那彫塑部の例に倣ひて、簡明なる小史を作りて卷首に掲げ、以て各品の解説に充つ。十年の間、弊院の努力と編者の辛苦とは、殆ど寄せてこの書に在り。看者これを諒せむことを請ふ。

第一圖 法隆寺金堂釋迦三尊金銅像 鞍作止利作

中尊身長四尺五寸 脇侍各身長三尺五分



... ..

... ..

... ..

... ..





第二圖 法隆寺夢殿觀世音菩薩木像

身長六尺五寸



廣東省立第一師範學校

附屬小學





第三圖 法隆寺金堂觀世音菩薩木像

身長七尺

卷之三

三 國 志 卷 之 三 諸 葛 亮 傳 第 三 十 三 回



第四圖 中宮寺如意輪觀世音菩薩木像

身長五尺二寸

卷之三

卷之三 中官卒遺棄餘糧書自其遺米



第五圖 廣隆寺如意輪觀世音菩薩木像


身長四尺三寸



德 国 工 业 革 命 史 考 索 卷 之 一

李 士 才 著





第六圖 帝室御物觀世音菩薩金銅像

身長臺座及光背共一尺三寸

第六編 經濟學 財政學 銀行學 保險學 社會學 倫理學

中華民國二十一年一月一日



第七圖 帝室御物如意輪觀世音菩薩金銅像

身長臺座共一尺三寸八分



中國科學院植物研究所 植物所

一九五九年十月



第八圖 法輪寺觀世音菩薩木像

身長五尺七寸

第八卷 國史編年

卷八





第九圖 法隆寺金堂四天王木像 其一、其二
第十圖 法隆寺金堂四天王木像 其三、其四

各身長四尺四寸

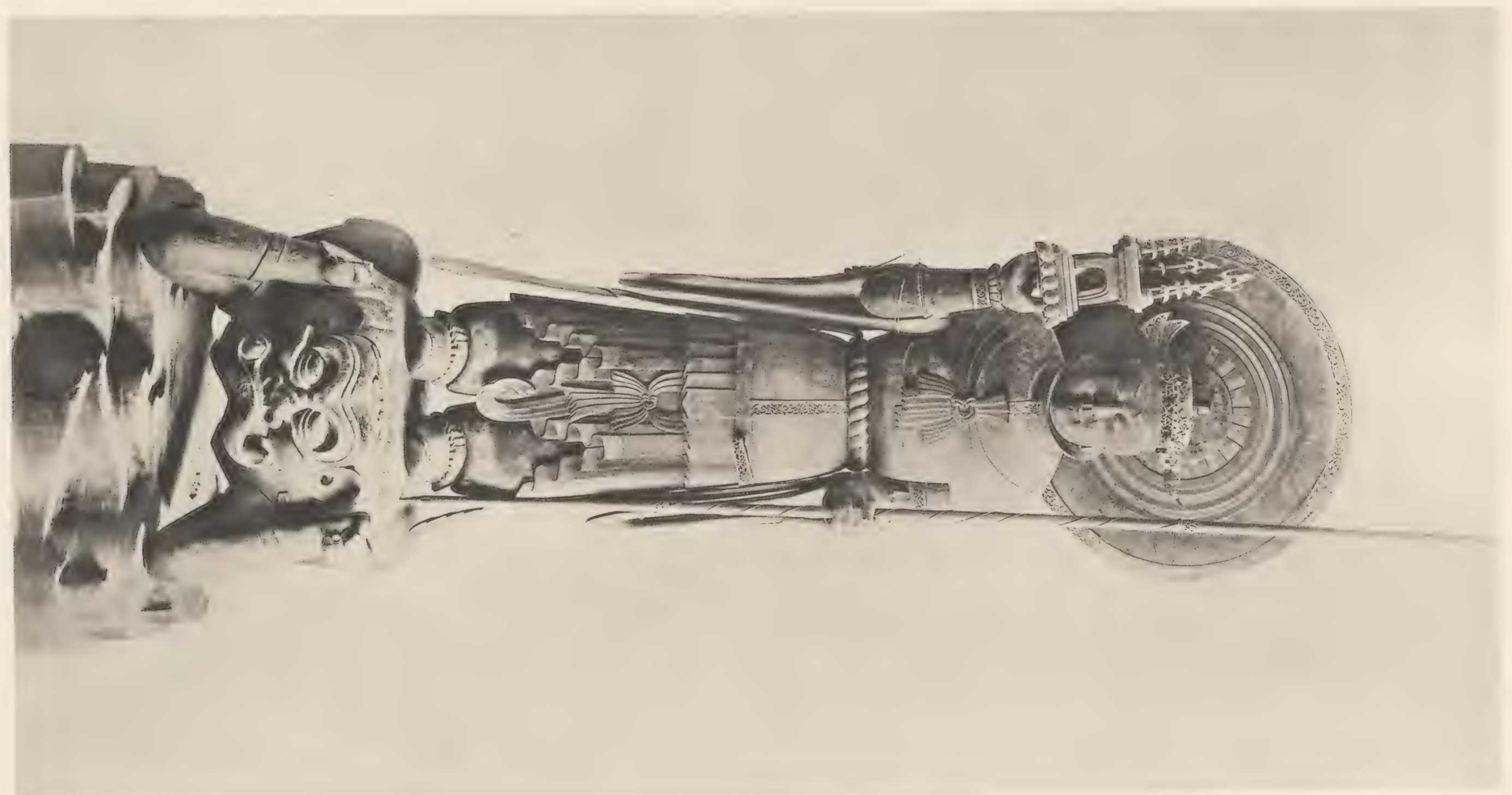
樂師德保、山口費大口等作

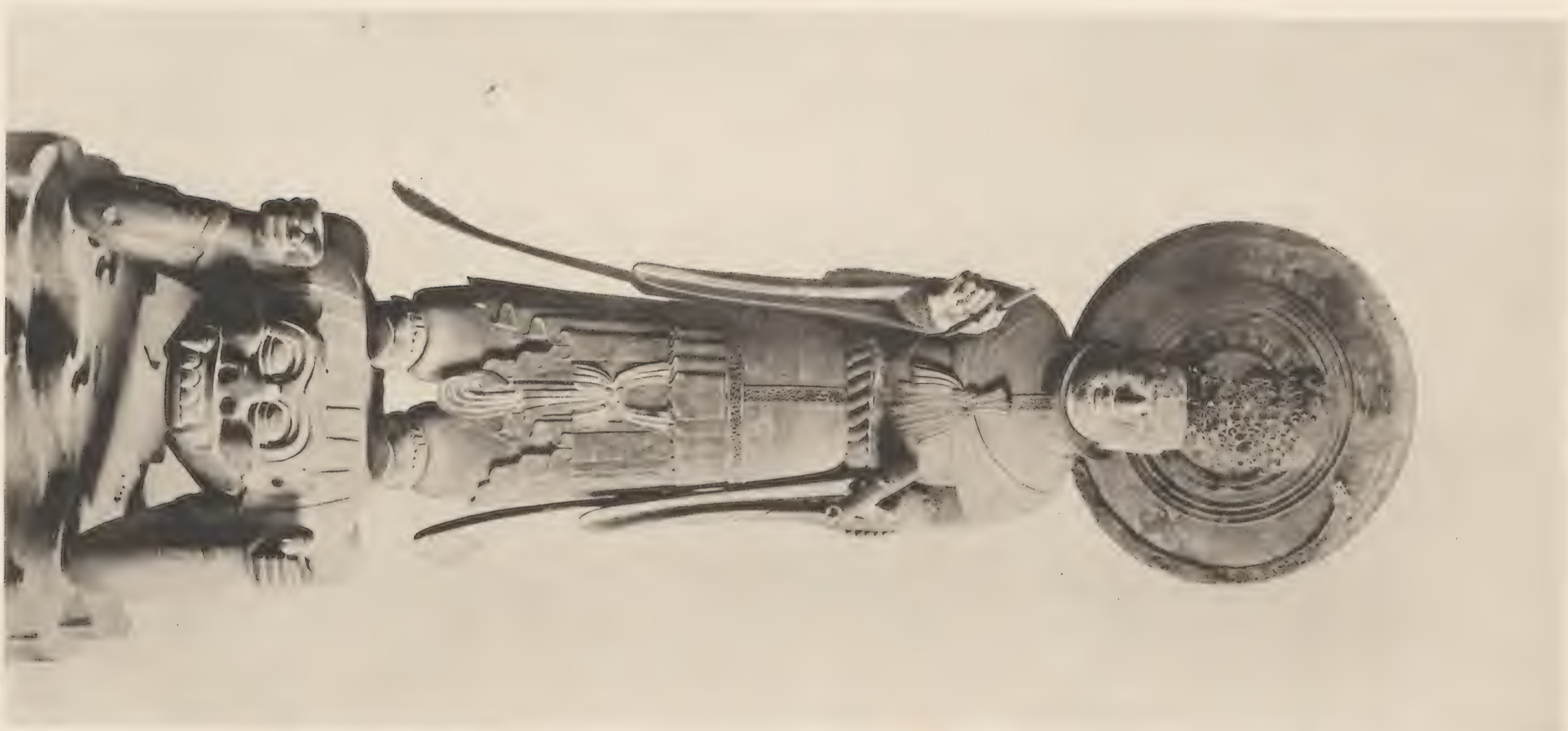


三式(表) 國庫券(1000圓) 國庫券(500圓) 國庫券(100圓) 國庫券(50圓) 國庫券(10圓) 國庫券(5圓) 國庫券(1圓) 國庫券(500圓) 國庫券(100圓) 國庫券(50圓) 國庫券(10圓) 國庫券(5圓) 國庫券(1圓)

中華民國二十九年

財政部





第十一圖 法隆寺金堂天蓋木彫飛天鳳凰



第十一回 出關帝金童天靈木 斬黃龍



第十二圖 岡寺天人磚

第十二種 四帝天人物



第十三圖 法隆寺金堂橘夫人厨子阿彌陀三尊金銅像

中尊身長一尺六寸 脇侍兩尊各身長八寸
屏風豎一尺七寸五分 橫二尺六寸



卷十三 雜記 二頁

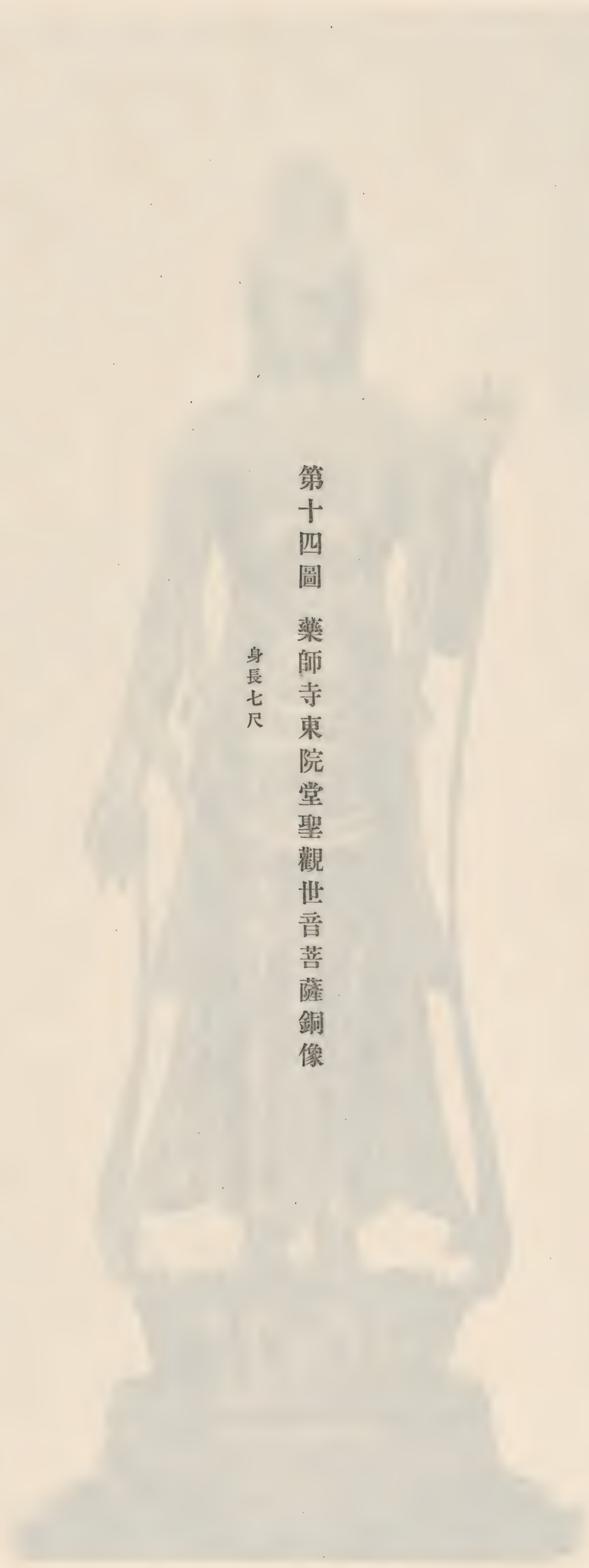
中書 卷一 頁六 雜記 卷一 頁六

卷十三 雜記 二頁



第十四圖 藥師寺東院堂聖觀世音菩薩銅像

身長七尺







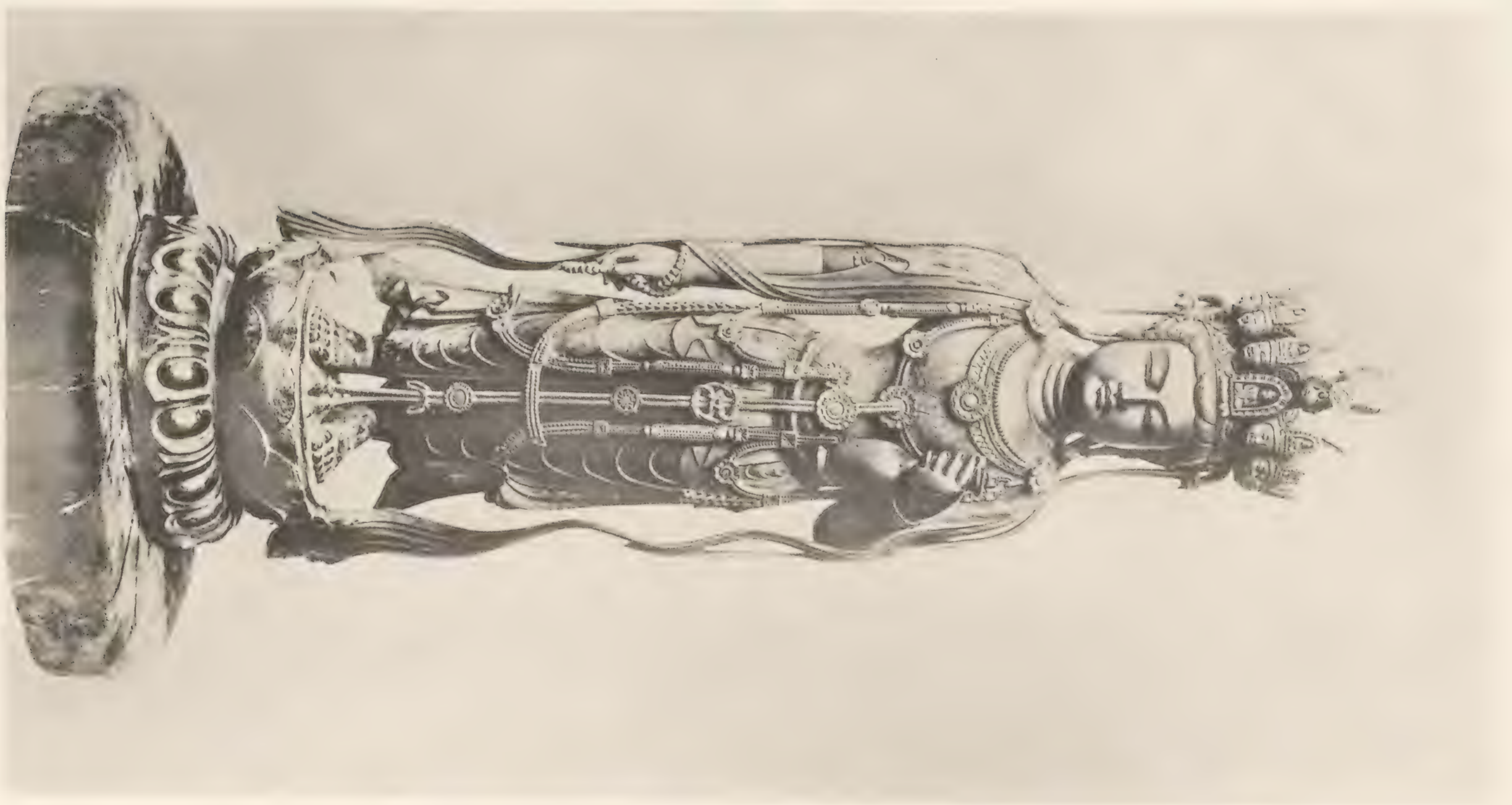
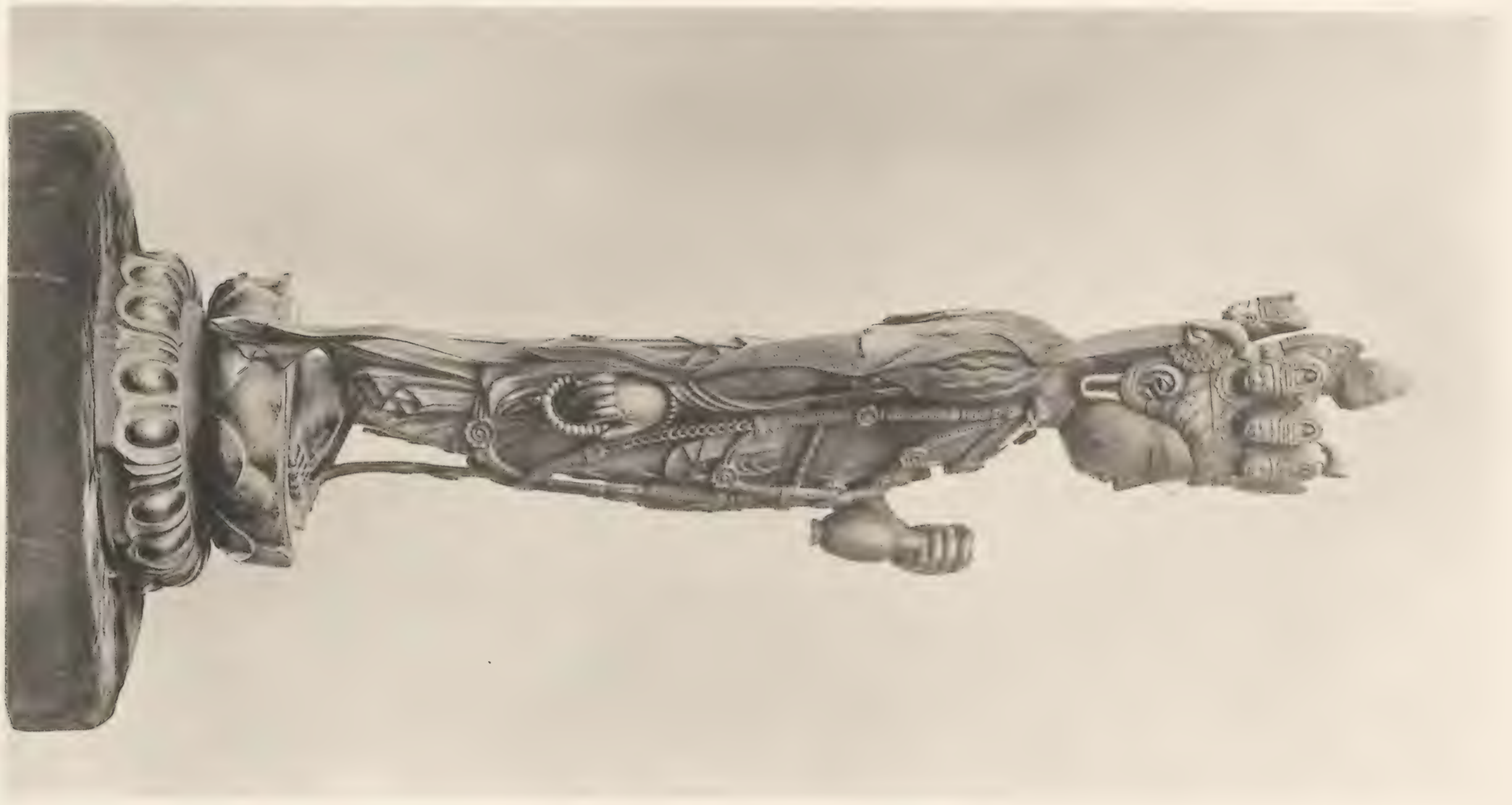
第十五圖 法隆寺九面觀世音菩薩木像

身長一尺二寸五分



中國書畫出版社

第十卷 中國書畫史綱要



第十六圖 藥師寺藥師三尊金銅像 其一

身長九尺

第十七圖 藥師寺藥師三尊金銅像 其二

身長一丈一尺二寸

第十八圖 藥師寺藥師三尊金銅像 其三

身長一丈一尺二寸

第十八回 漢高祖受械陳彭越張敖

第十九回 陳彭越張敖謀反 魏豹請救張敖

第二十回 張敖謀殺張敖 魏豹請救張敖





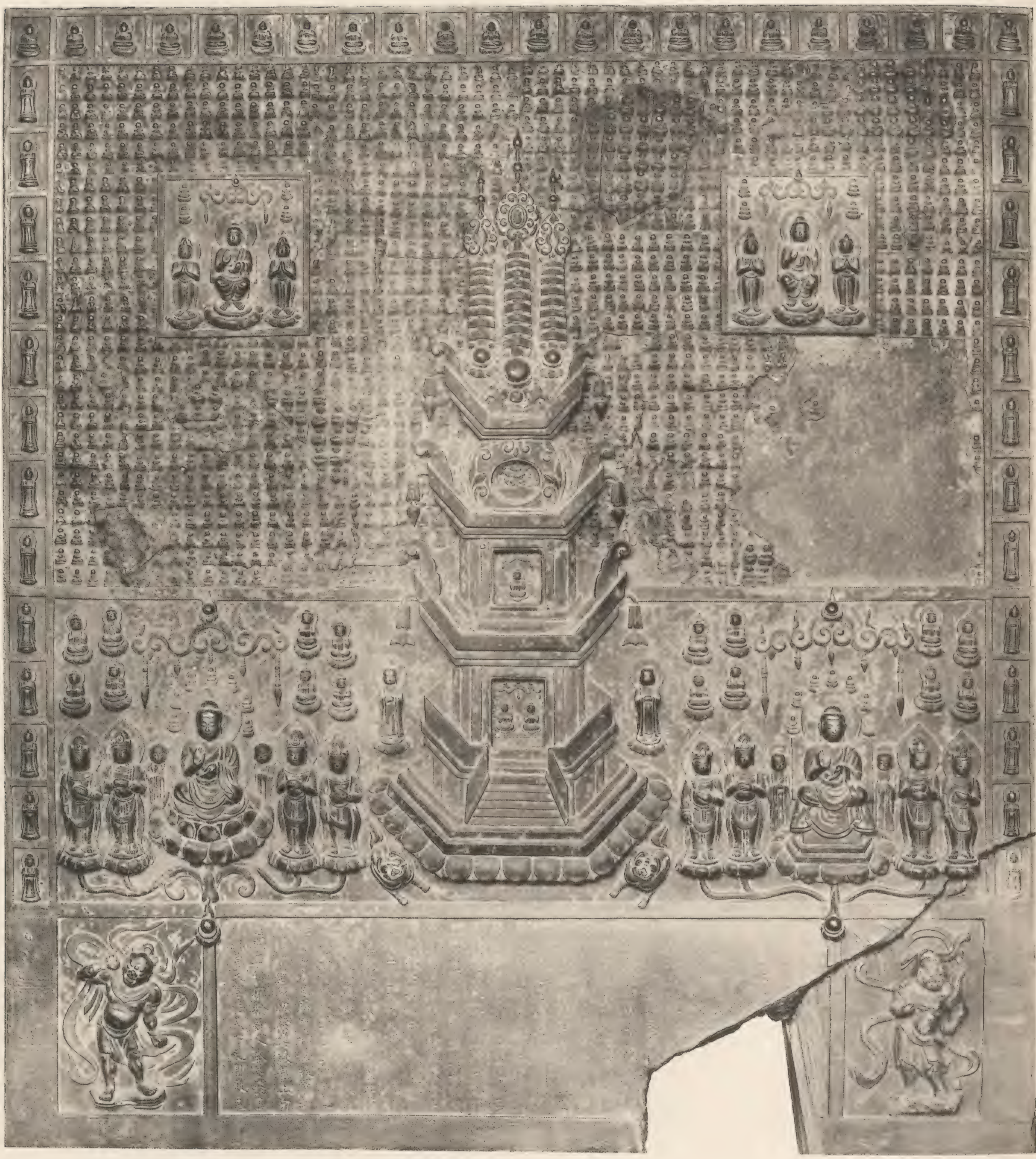


第十九圖 長谷寺銅鑄鎚鏝千佛多寶塔

鑿二尺七寸四分 橫二尺四寸八分 重量三十五貫餘

第十次會議 報告及決議案

民國二十一年一月一日 廣東省政府





第二十圖 蟹滿寺釋迦銅像

身長八尺



第一卷 第二十一回

卷二十一



第二十一圖 法隆寺塔內塑像 文殊維摩問答及佛涅槃

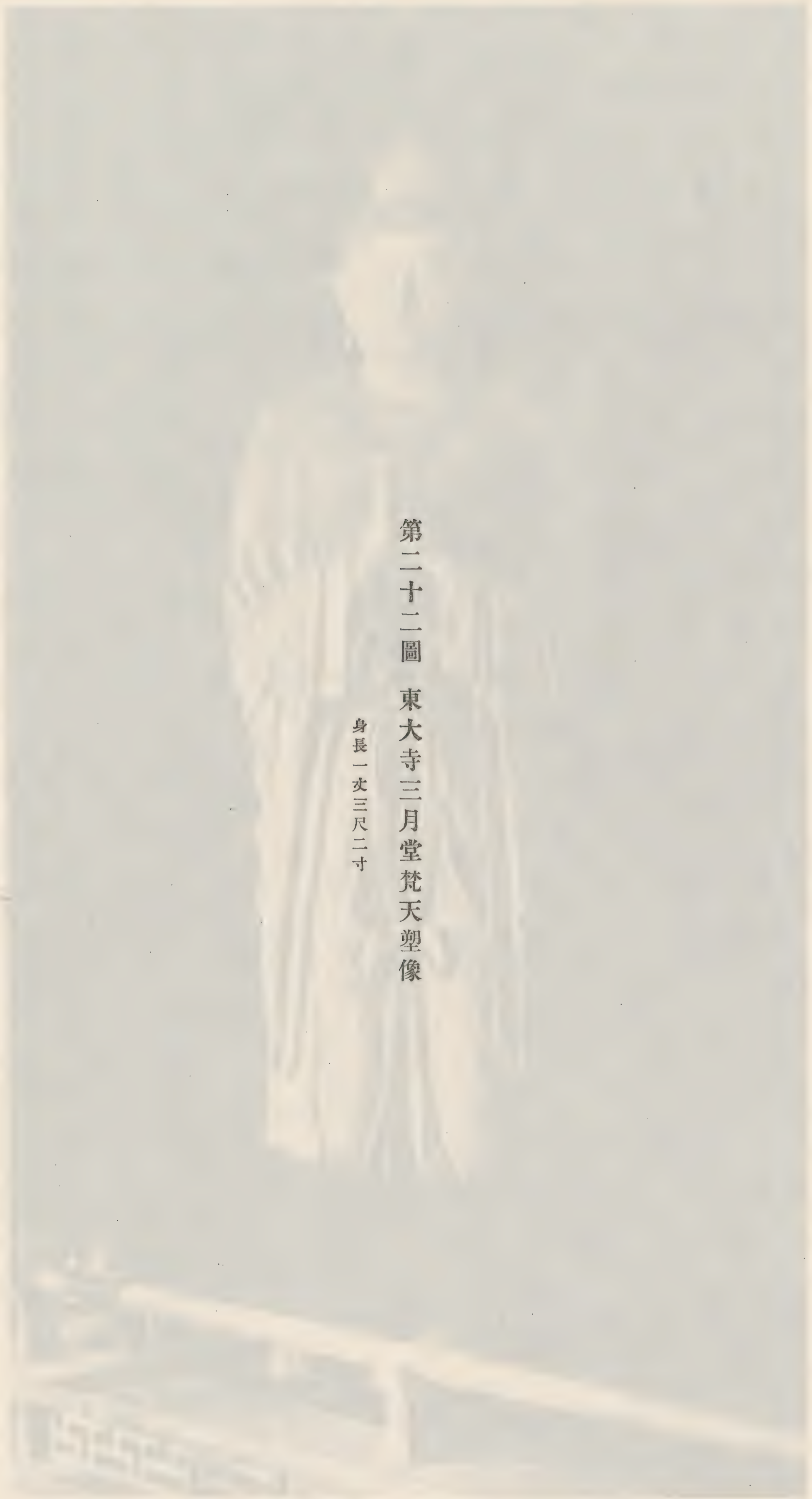
山趾最高一丈三寸 中央幅九尺五寸



第二十二卷 經濟社會學叢刊 中國經濟學叢刊

商務印書館發行 中華民國二十九年





第二十二圖 東大寺三月堂梵天塑像

身長一丈三尺二寸

卷之三十一

第三十一卷 漢文第三十卷



第二十三圖 東大寺三月堂廣目天夾苧漆像

身長一丈



第二十三圖 東大前二日 東京日本美術會

東京



第二十四圖 東大寺三月堂執金剛神塑像

身長五尺五寸



卷之五十一

二十四圖 東大寺三門堂燭金剛佛變



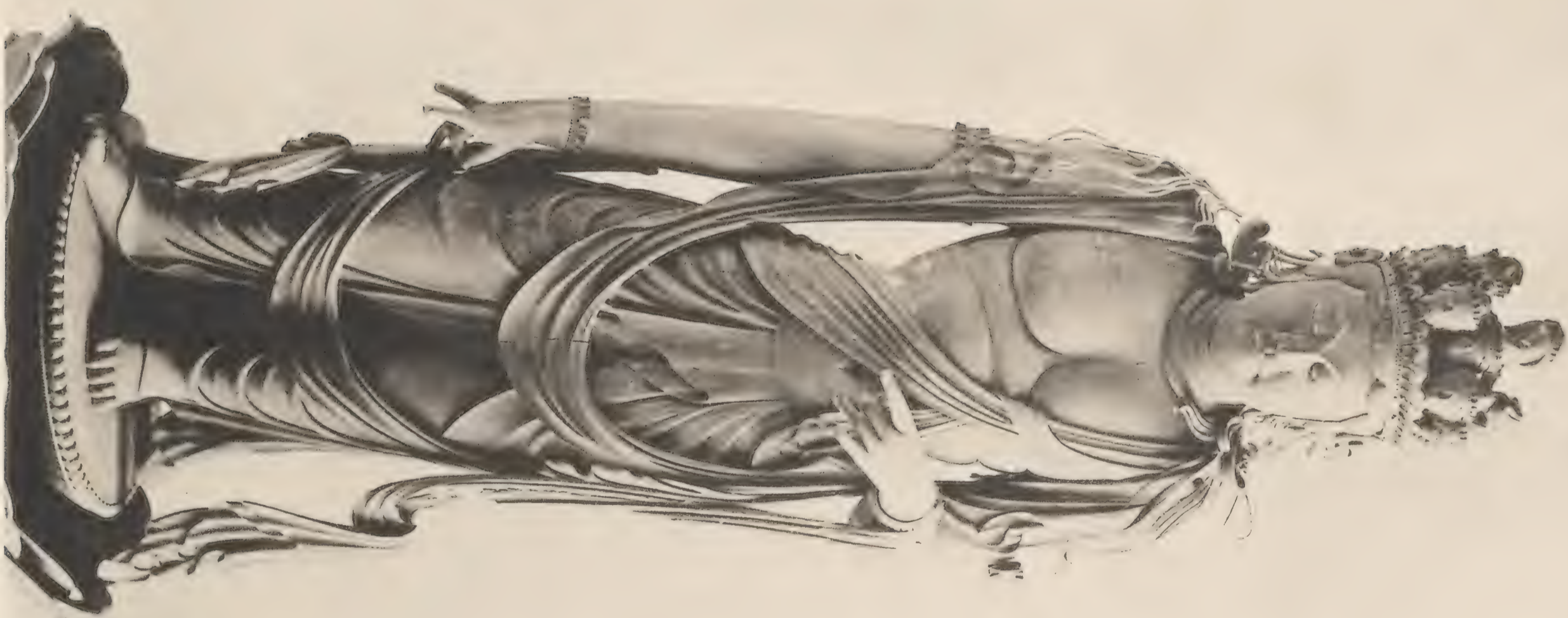
第二十五圖 法華寺十一面觀世音菩薩木像

身長三尺二寸



第二十五卷 卷末第十一回 櫻桃世言書卷末

中江流傳



第二十六圖 東大寺戒壇院四天王塑像 其一 毘沙門天王

第二十七圖 東大寺戒壇院四天王塑像 其二 增長天王

第二十八圖 東大寺戒壇院四天王塑像 其三 持國天王
其四 廣目天王

各身長五尺四寸

第二十八回 車大等與蘇國因天王傳計

第二十九回 車大等與蘇國因天王傳計

第三十回 車大等與蘇國因天王傳計







第二十九圖 唐招提寺廬舍那佛夾苧漆像



第二十八回 魏延自刎 曹操大宴 许都



第三十圖 唐招提寺鑑真和尚紙糊像

身長二尺七寸五分



第三十卷 第三十號 第三十號

中華民國二十九年



第三十一圖 興福寺十大弟子夾苧漆像 須菩提

身長四尺九寸五分



第三十一圖 漢代十六國子承承圖

漢代十六國子承承圖





第三十二圖 興福寺八部衆夾苧漆像



卷三十二 關 興 師 卒 八 續 集 夾 亦 錄



第三十三圖 聖林寺十一面觀世音菩薩夾苧漆像

身長一丈



四川省水利廳 編 民國三十三年

第一冊



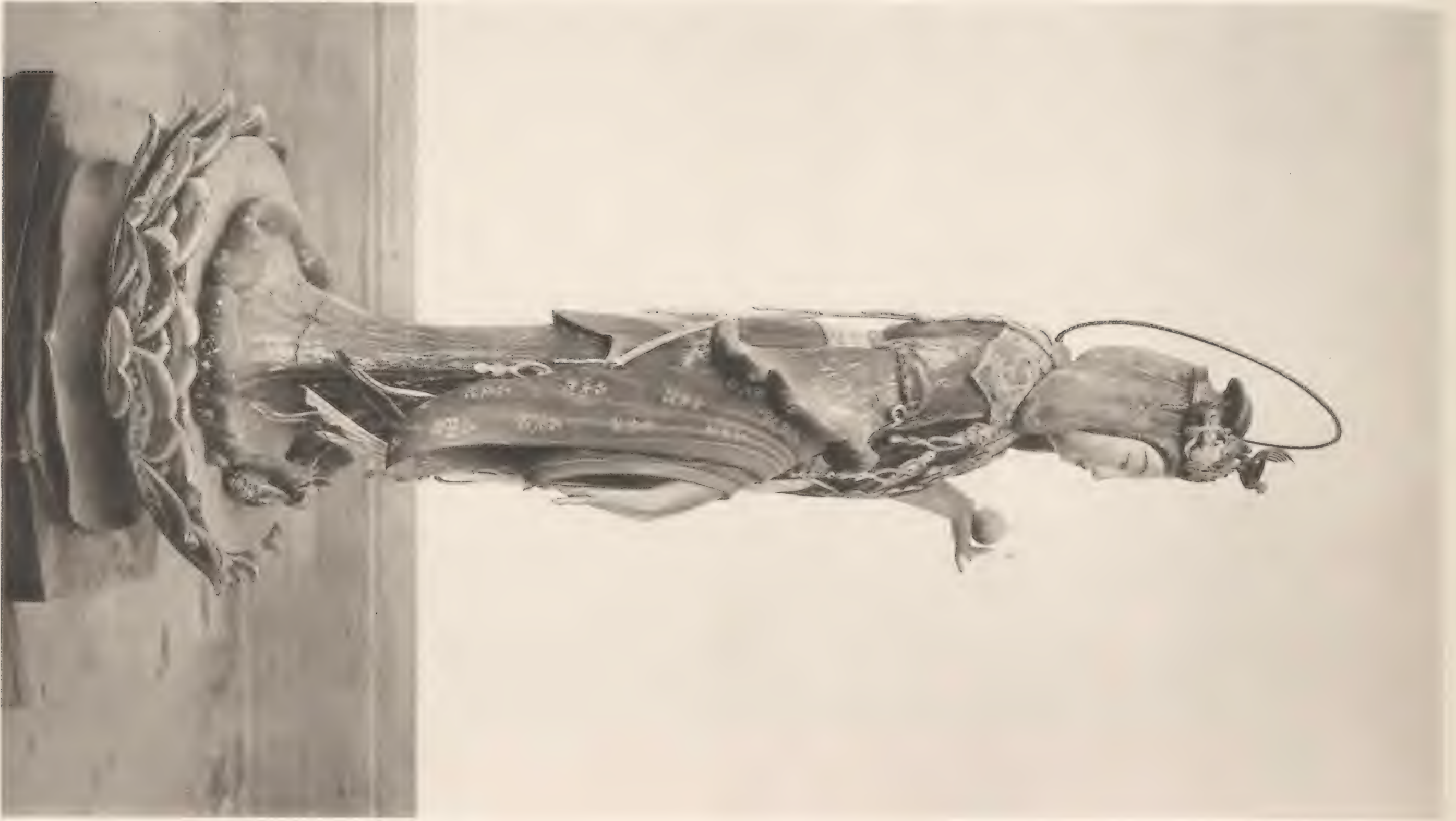
第三十四圖 淨瑠璃寺吉祥天木像

身長蓮臺共高三尺四寸



第三十四圖 船隻與車古物天木圖

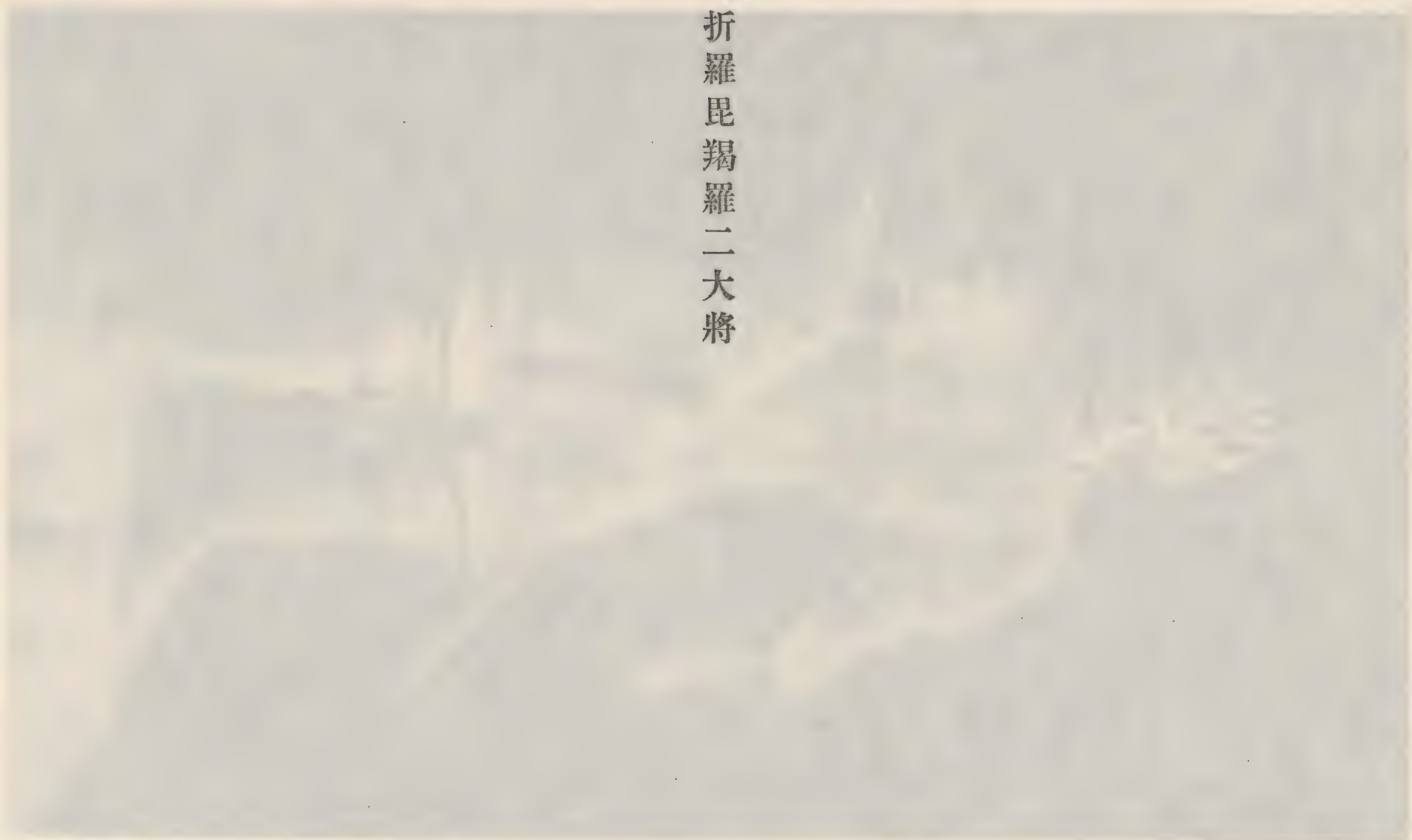
船隻與車古物天木圖





第三十五圖 新藥師寺十二神將塑像伐折羅毘羯羅二大將

各身長五尺八寸



第三千五百四十二號 德意志銀行 柏林分行 德意志銀行

一九二九年五月八日



第三十六圖 興福寺銅鑄華原磬

臺座共高三尺二寸五分



第三十六回 魯班與曹操

卷之三十一



第三十七圖 豐後國白杵大日山磨崖像 其一

第三十八圖 豐後國白杵大日山磨崖像 其二

第三十九圖 豐後國白杵大日山磨崖像 其三

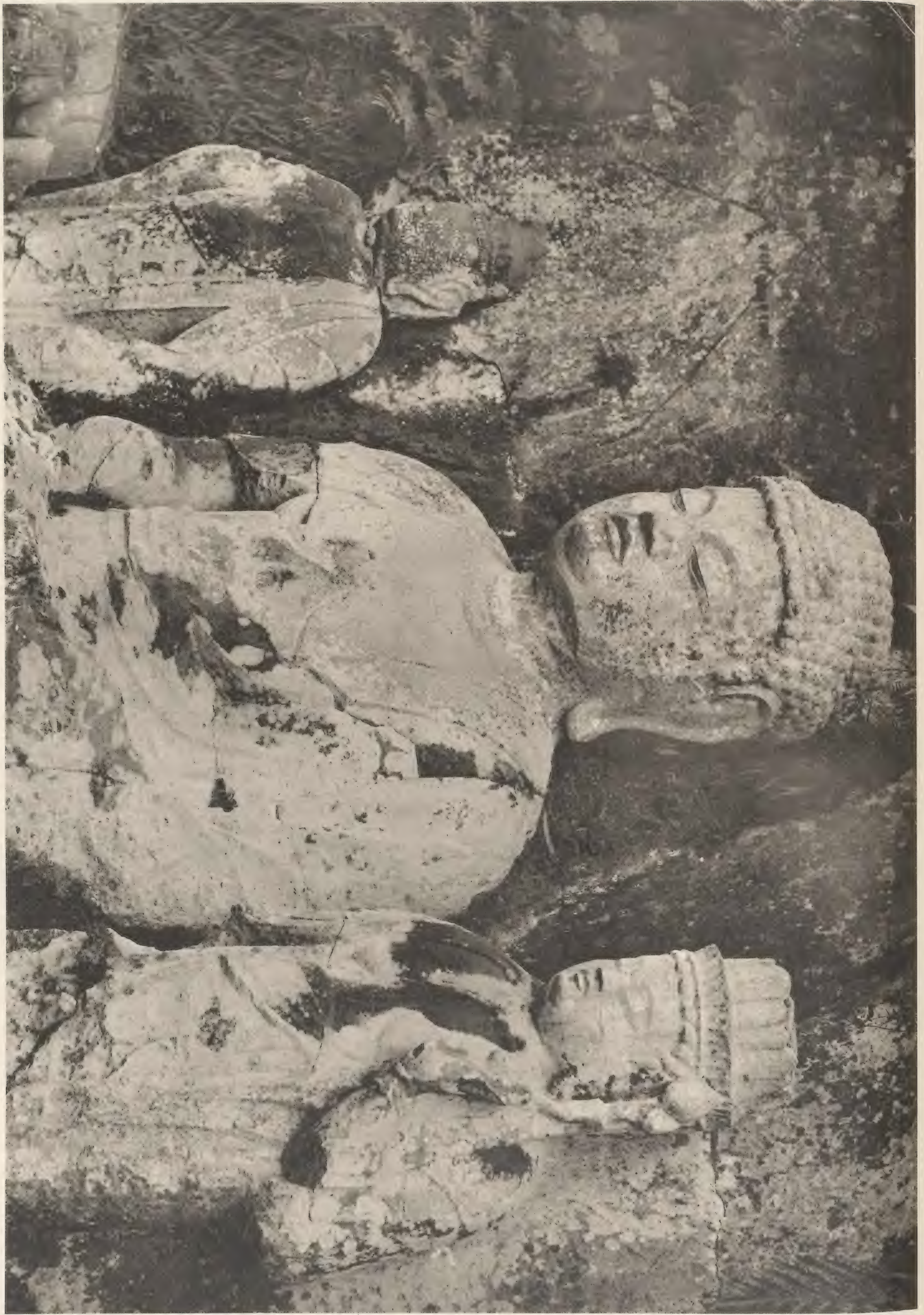
第四十圖 豐後國白杵大日山磨崖像 其四

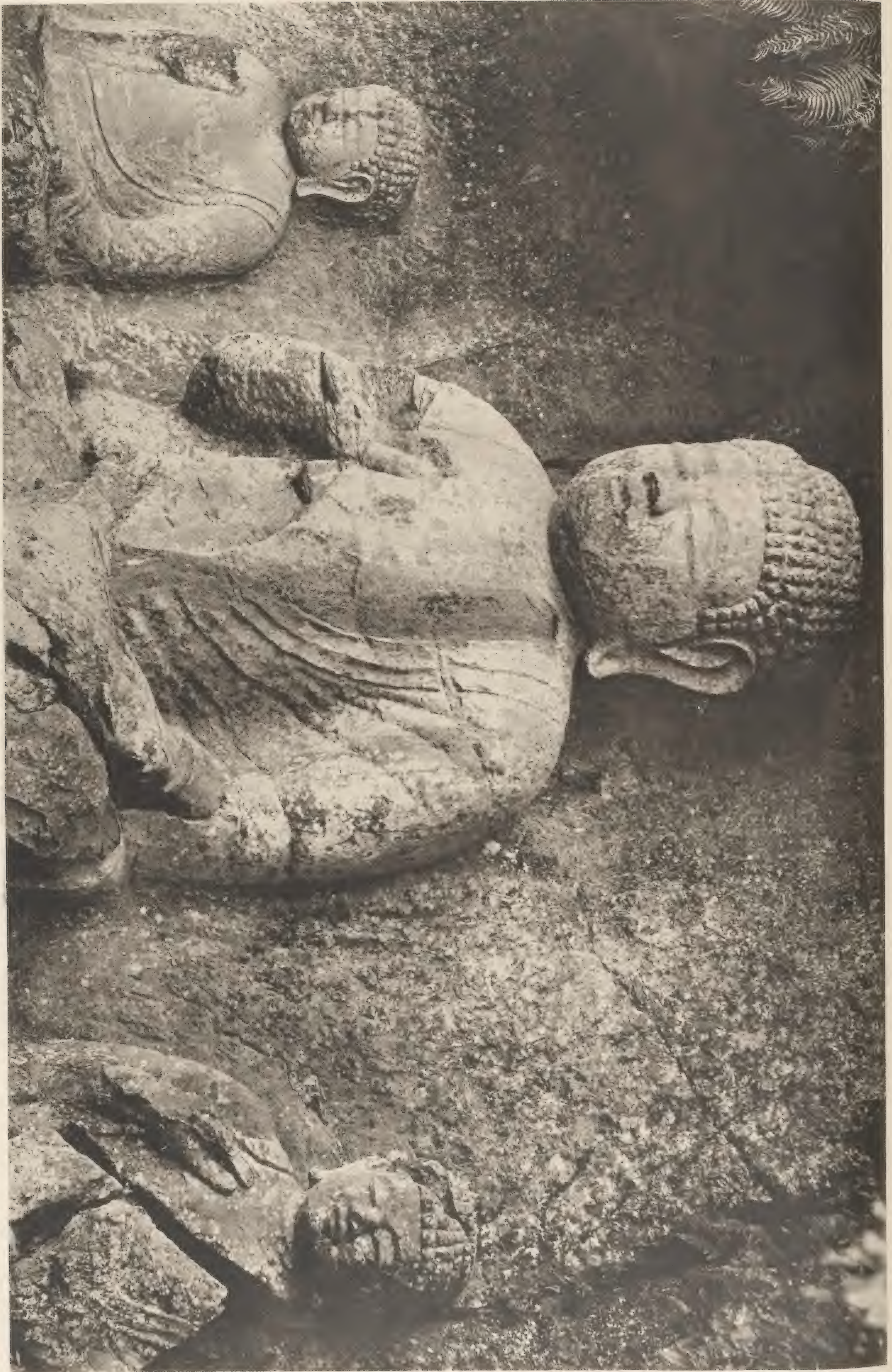
卷四十一 聖賢圖白卷六日山嶽圖

卷三十八 聖賢圖白卷六日山嶽圖

卷三十六 聖賢圖白卷六日山嶽圖

卷三十四 聖賢圖白卷六日山嶽圖









第四十一圖 正倉院御物伎樂神王面 將李魚成作

第四十二圖 正倉院御物伎樂面二 隨群作

第四十三圖 正倉院御物伎樂迦樓羅面

第四十三圖 五會通釋卷之陸 歐陽修撰

第四十二圖 五會通釋卷之陸 歐陽修撰

第四十一圖 五會通釋卷之陸 歐陽修撰







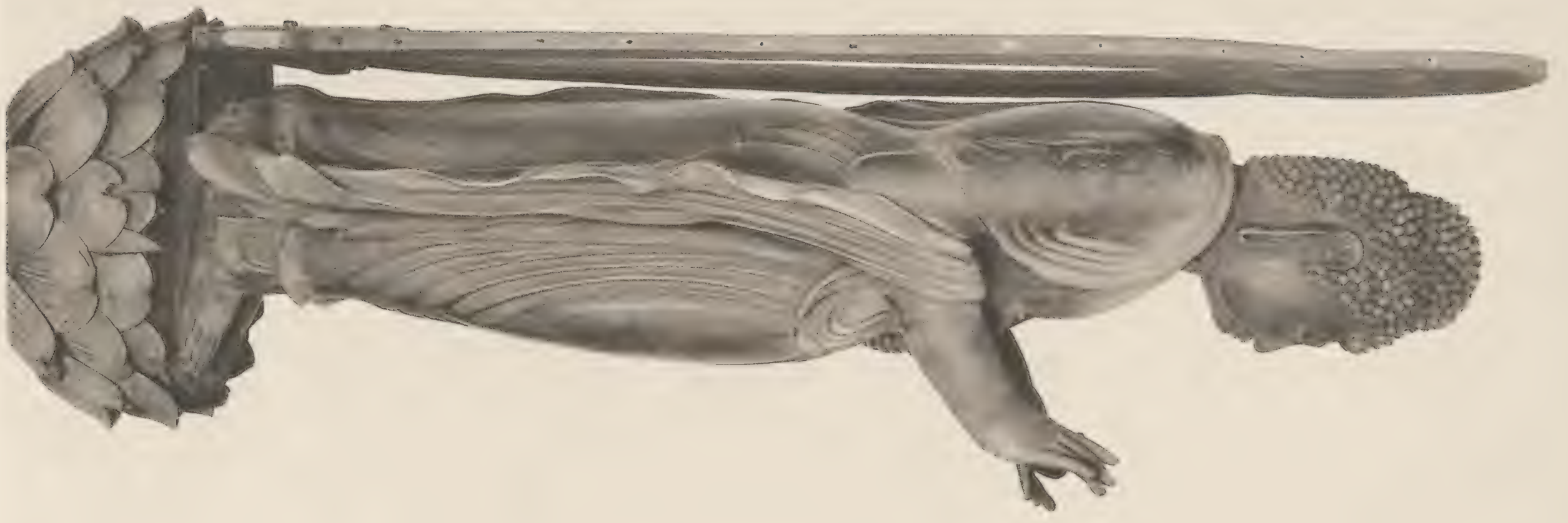
第四十四圖 神護寺藥師如來木像

身長五尺六寸四分



卷之六十四

漢四十四圖 梅溪亭 漢相 漢末



第四十五圖 教王護國寺不動明王木像 弘法大師作

身長三尺七寸五分

第四十五册 蒙古通志卷之六十五 蒙古源流

蒙古源流



第四十六圖 近江渡岸寺觀音堂十一面觀世音菩薩木像

身長六尺五寸



卷四十六

雜記四十六 雜記四十七 雜記四十八 雜記四十九 雜記五十

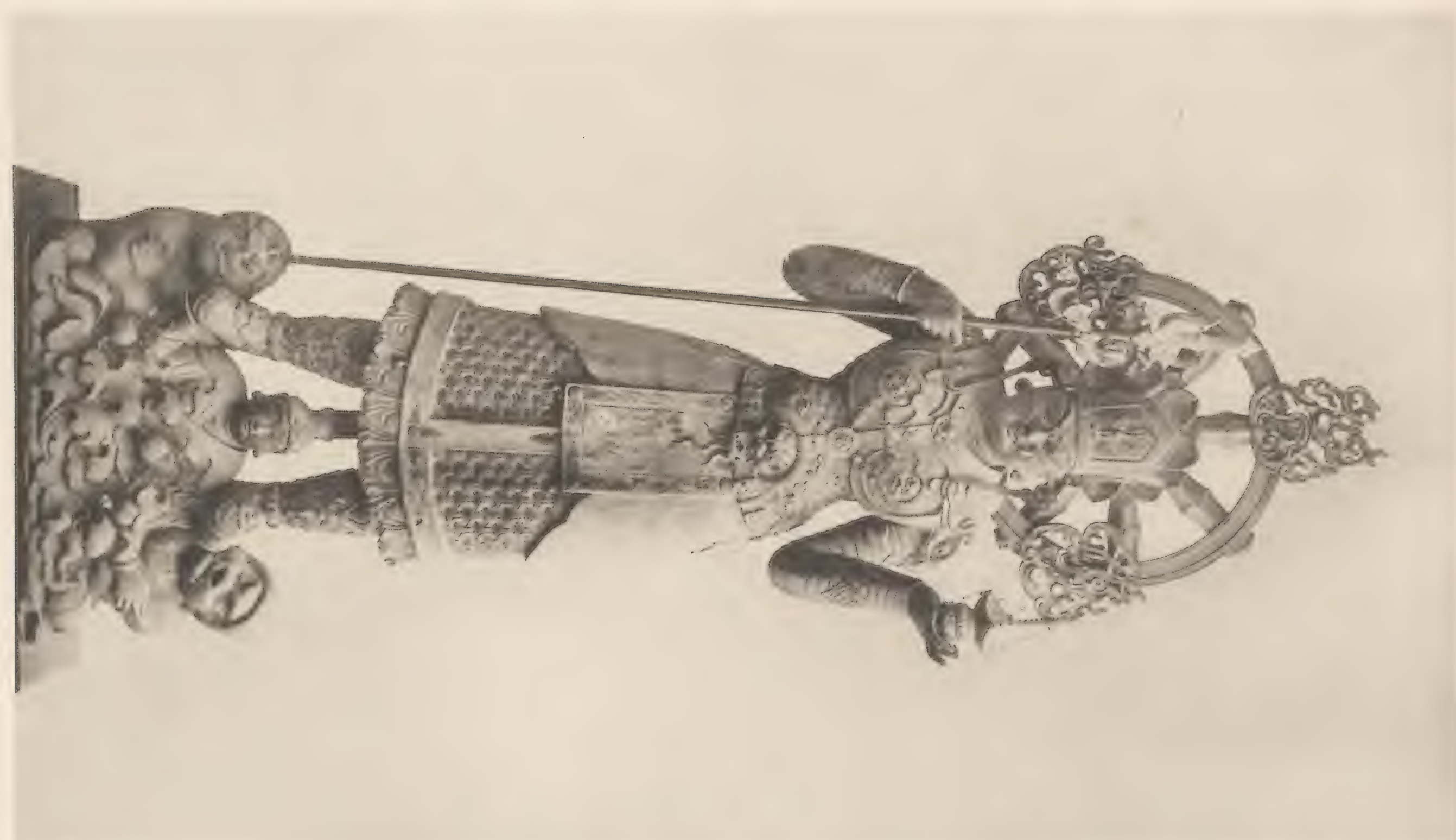
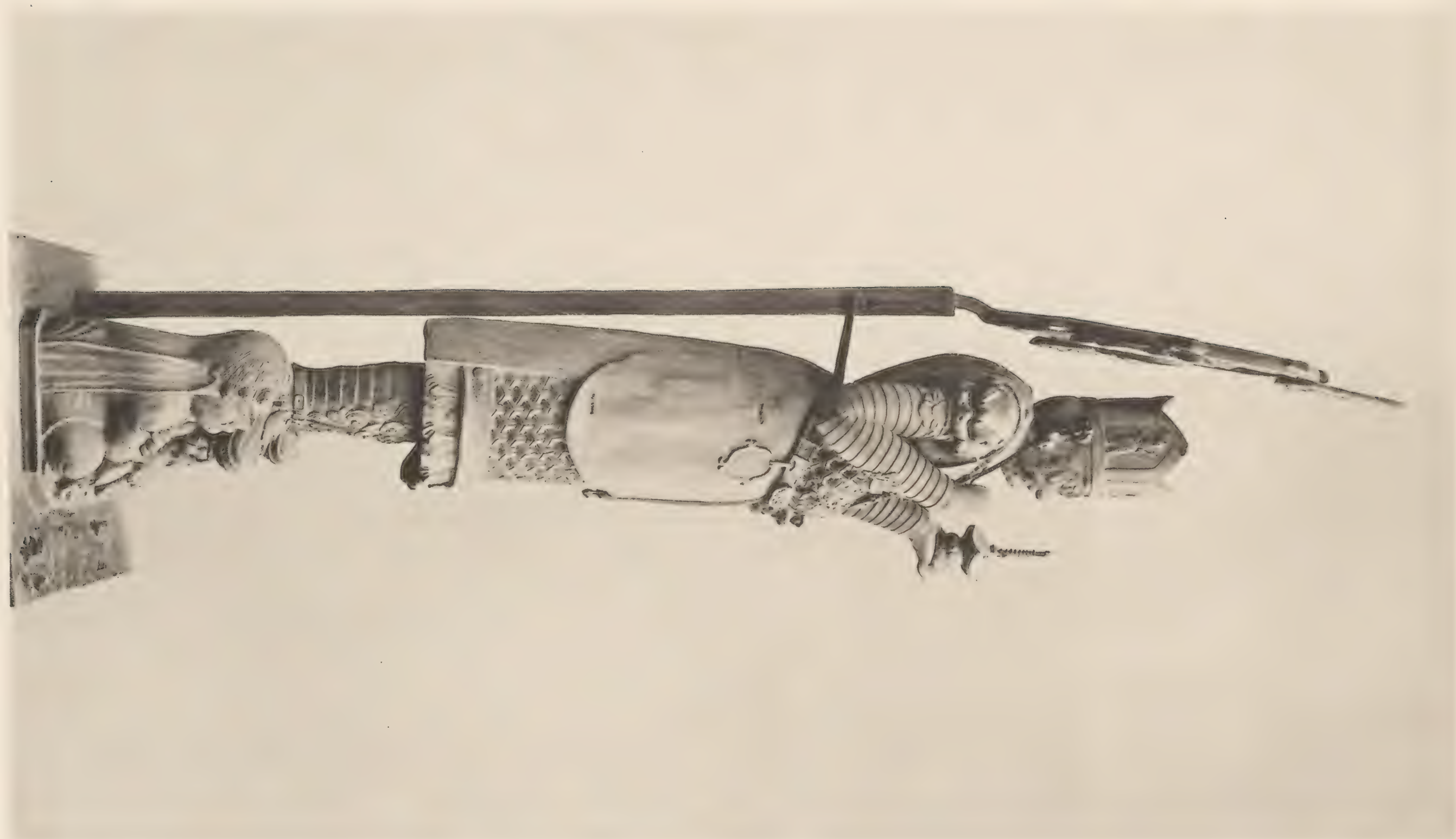


第四十七圖 教王護國寺兜跋毘沙門天木像

身長六尺三寸

廣州各埠通商口岸通商章程 第四十六條

本國各埠通商



第四十八圖 東大寺良辨僧正木像

身長三尺一寸二分



卷之三十一

四十八回 東大寺貞德册五本齋



第四十九圖 松尾神社男神木像

第五十圖 松尾神社女神木像



圖五十四 雙鳳轉五支轉木胎

圖四十五 雙鳳轉五支轉木胎





第五十一圖 藥師寺八幡宮仲姬木像



第五十一回 聖明太子八朝宮外遊本朝



第五十二圖 平等院鳳凰堂阿彌陀如來木像

定朝作



卷之十二 年表 魏 晉 南北朝 隋 唐 宋 元 明 清



第五十三圖 法金剛院十一面觀世音菩薩木像

身長二尺八寸



卷之三十八

卷之三十八 古今雜記十一 國朝通志 國朝本朝



第五十四圖 中尊寺一字金輪佛頂木像

身長二尺四寸八分 臺座高一尺三分



卷二十八 雜記 一之三

庚正十四日 中意者一字金銀將頭木銀





第五十五圖 長命寺千手觀世音菩薩木像

身長二尺九寸

真經二頁

藏正十正圖 是命幸于年贈世普善壽木



第五十六圖 大寶神社木彫狛犬



第五十六圖 大寶帳簿本題目天





第五十七圖 興福寺玄昉木像

第五十八圖 興福寺常騰木像

各身長二尺六寸



康慶作

香奩是二只六十

雜畫十八圖 興福寺常觀木射

雜畫十子圖 興福寺支那木射

雜畫明







第五十九圖 東大寺南大門二王木像 其一 運慶作

第六十圖 東大寺南大門二王木像 其二 湛慶作

各身長二丈六尺五寸

後六十圖 東大寺南大門二王木繪其二

後五十此圖 東大寺南大門二王木繪其一



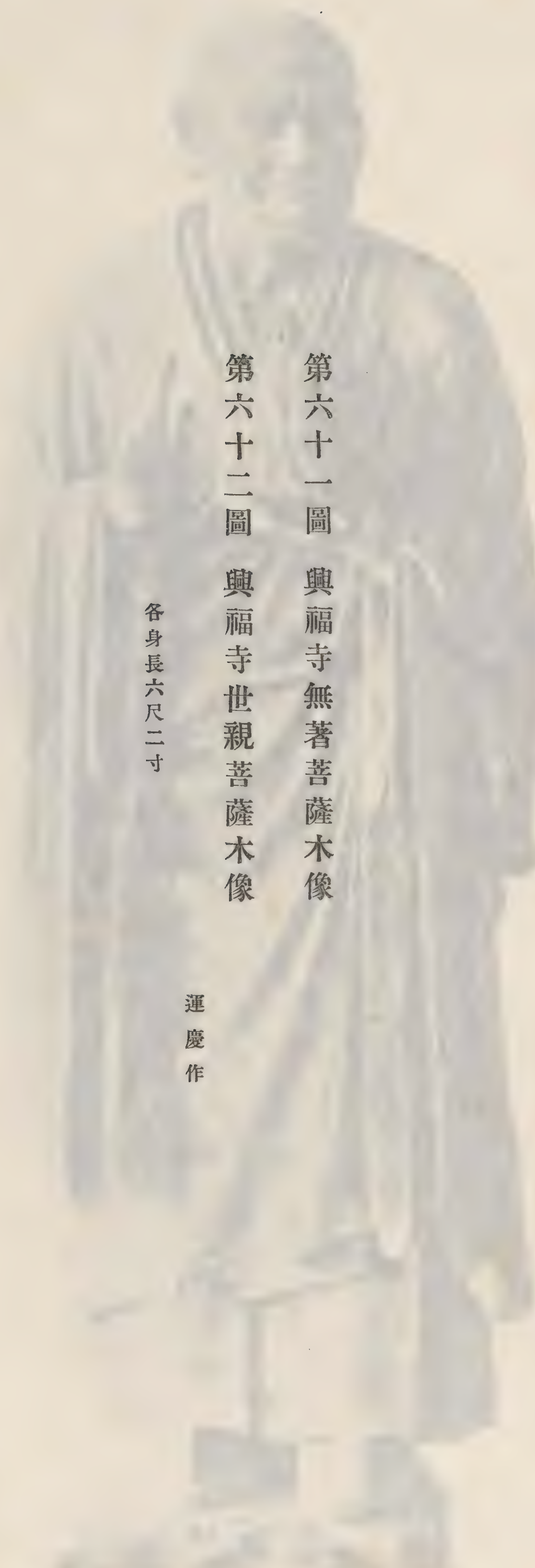


第六十一圖 興福寺無著菩薩木像

第六十二圖 興福寺世親菩薩木像

各身長六尺二寸

運慶作



香林通六只二十

卷六十二圖 興福寺廿張菩薩木射

卷六十一圖 興福寺廿張菩薩木射

版圖卷







第六十三圖 蓮華王院婆藪仙人木像

身長五尺



真疑正只

第六十三圖 燕華王刻雙蓮冊人木翁



第六十四圖 金剛峯寺不動堂矜羯羅童子木像

身長三尺一寸



後集三
只一

後六十四回 金剛經寺不離堂林俱羅童子未終





第六十五圖 興福寺維摩居士木像 定慶作

身長三尺

卷三

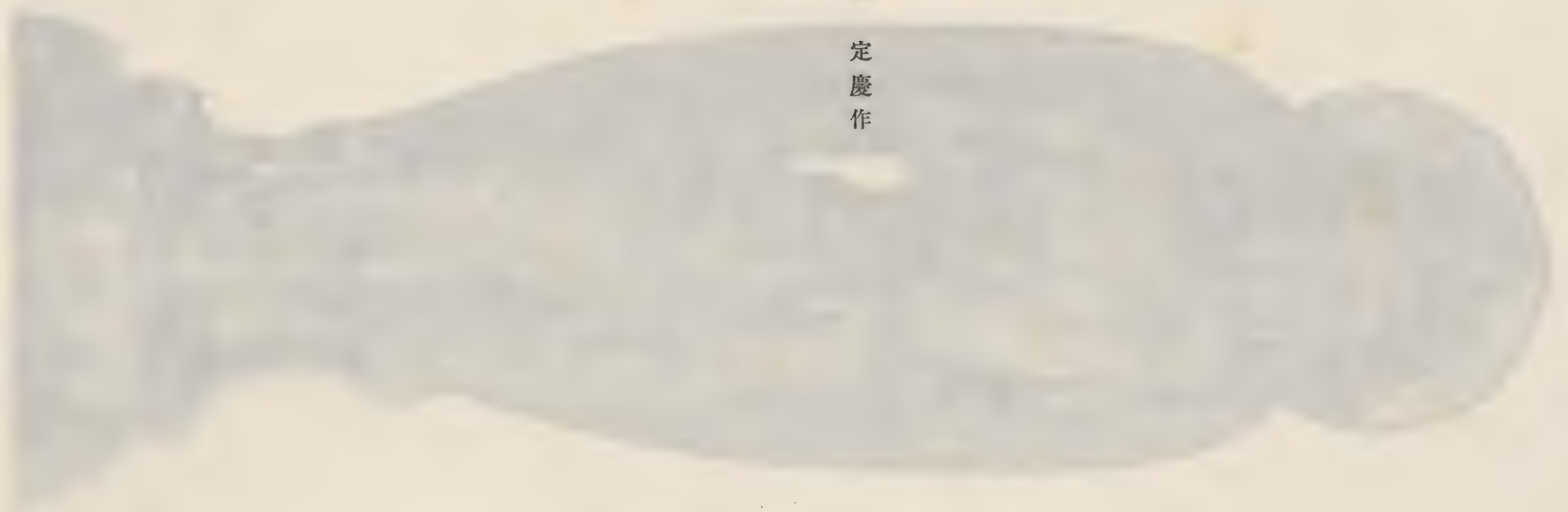
第六十五圖 興福寺鎌倉銀土木繪





第六十六圖 鞍馬寺聖觀世音菩薩木像 定慶作

身長五尺九寸二分



佛經卷之六

第六十六圖 辨諷寺聖蹟世音菩薩木胎 五通寺



第六十七圖 興福寺二王木像

各身長五尺

定慶作



卷之五

第六十圖 興福寺二王木刻

五五五





第六十八圖 興福寺木彫龍燈鬼天燈鬼 康辨作

各高二尺六寸



香高二尺六寸

第六十八圖 興福寺木瀨道登泉天登泉 攝





第六十九圖 東大寺僧形八幡大菩薩木像 快慶作

身長二尺七寸七分

卷之二

卷之二
第六十次圖
東大寺曾紙八冊
大菩薩木葉
并圖





第七十圖 東大寺重源上人木像

身長二尺六寸九分



卷二十六 武臣

續十圖 東大寺重顯上人木鐸



第七十一圖 東大寺南大門石獅子 二軀

各身長五尺四寸 臺座四尺四寸四分



谷森正只四七 蓋山前只四十四也

穀子十一圖 東大寺南大門百礎子 二部



第七十二圖 建長寺北條時賴木像

身長二尺二寸三分



卷之二十三

第十二圖 蕪興寺北新初藤木



第七十三圖 銀閣寺足利義政法體木像

身長二尺八寸



卷之十三圖 驗開寺呈降鐘題去翻木翁

表身二只八十



第七十四圖 寶山寺不動明王木像 湛海作

身長一尺四寸 光背及臺座共總高二尺九寸六分



養身一尺四寸 次管及蓋面共高二尺六寸六分

養身十四圖 寶山寺不健即王木翁 游前



跋

東洋美術大觀こゝに完成す。斐然たる大冊一十五卷。その内容、その實質、東洋の美術書中、現代に於て能くこれに比儔するものなきは、決して弊院の誇言に非ざることを信じて疑はざるなり。前後十年經營慘憺、弊院の努力聊さかこの成果を收め得て、多少藝苑を裨益し、文運に貢獻する所あるべきを喜ばずんばならず。然れども是れ嘗に弊院の力のみならず。その能くこゝに至ることを得たるは、一に 帝室の御物を首め奉り、古社舊刹、及名門貴紳の、その重襲秘藏せる寶物の鑒賞影寫を許すに吝ならざりしと、斯道専門諸彦の協賛助力との賚ものゝ致す所に外ならざるなり。書成るに方りて、謹でこゝに感謝の誠意を布くと云爾。

大正戊午初夏

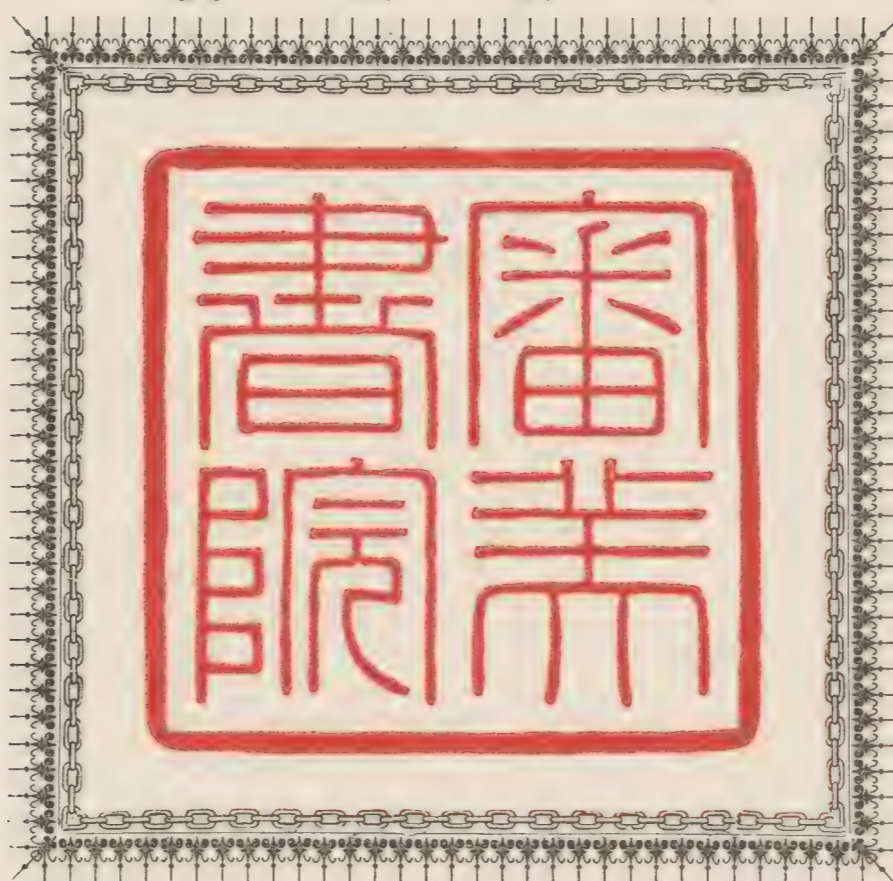
株式會社審美書院

專務取締役 窪 田 勘 六 識

Taijma Shitohi
Toys Bijutsu Zai Kan

大正七年七月一日印刷
大正七年七月五日發行

不許複製



發行所兼
印刷所

(東洋美術大觀第十五册日本彫塑之部奥附)

編輯者兼
發行所
窪田勘六
東京市京橋區新肴町十三番地
株式會社 審美書院代表者

寫真版印刷者
中山音次郎
東京市京橋區新肴町十三番地
株式會社 審美書院寫真版部主任

活版印刷者
岡山來輔
東京市京橋區新肴町十三番地
株式會社 審美書院活版部主任

東京市京橋區新肴町十三番地

株式會社 審美書院

電話京橋區一二五五番

大五子半子其一日
大五子半子其一日
大五子半子其一日
大五子半子其一日
大五子半子其一日
大五子半子其一日

不 得 磨 變



印發
條計
兼視

中華民國二十三年一月一日

夢 樓 三 集 三 五 五 卷
審 判 官 印
美 書 網
康 京 市 京 師 道 署 第 十 三 號 啟

審 判 官 印
圓 山 來 備

康 京 市 京 師 道 署 第 十 三 號 啟

審 判 官 印
中 山 官 志 備

康 京 市 京 師 道 署 第 十 三 號 啟

審 判 官 印
縣 田 備 六

康 京 市 京 師 道 署 第 十 三 號 啟



Blank Page Digitally Inserted

SMITHSONIAN INSTITUTION LIBRARIES



3 9088 01612 7789